

ゆりかご 園だより

2020 - 9 - 1



2期(6~9月)のねらい
からだづくり活動を通して子ども
関係の質を高めよう



18時以降の延長保育は1階
ホールで行っています。ある日、延長
保育が始まる頃、1歳児のAちゃん
と一緒に、2階クラスの子どもたち
を迎えに行きました。3歳児のM

ちゃんが「Aちゃん」と嬉しそうに駆け寄り、階段を一緒に降りようと手
を差し出しました。でも、Aちゃんは一人で降りたかたようでその手を振り
払い、手すりを使って慎重に降り始めたのです。

「あらあら、せっかくMちゃんがお姉さんぶりを発揮しようとしてくれたのに
と、断られたMちゃんを気の毒に思ったのですが、MちゃんはAちゃんにやさ
しいまなざしを向けながら、Aちゃんのペースに合わせて横並びで見守り
ながら階段を降りていきました。

相手を思い心を寄せるということは、直接的なかわりだけではな
いのだよとMちゃんに教えてもらった気がしました。お迎えに来たMちゃ
んのお母さんにこのエピソードを伝えると、この春卒業した子どもの名前を
あげ、「延長保育の時に自分がお兄ちゃんにやってもらったことを、今度は
自分が小さい子にやっあてあげているのかな」と言っていました。

人と関わるかや豊かな心を育てるためには、同年齢だけでなく異年齢
でのかわりも大切だと感じています。行事や期間を決めての交流から
始め、交流内容の段階を踏むなど準備期間を経て、生活を共にする
異年齢保育を2006年から本格実施しました。初めの頃は小さい子へのかわ
り方を知らず対等に接する5歳児を、憧れの対象とは思えず怖い
存在と感じていた3歳児。1年も経つとかわり方を学ばずい分変わってき
ました。大きい子への憧れが育ったり、小さい子への思いやりやいたわりの芽
がふくらんできたようでした。

今年の運動会はいろんな制限をせざるを得ない状況ですが、毎年
恒例の異年齢クラスの大玉運びは、ぜひ皆さんに見ていただきたい競技
です。3歳児・4歳児・5歳児が力を合わせる姿に成長を感じることでし
ょう。刺激し合い切磋琢磨する中で力をつけていく障がい物競走と共に、短
い時間ではありますが、子どもたちの成長を一緒に喜び合いたいと思います。